

《参考資料》

事例集

【調査票回答データ】

受入地域編

「子ども農山漁村交流プロジェクト」受け入れに関する調査票

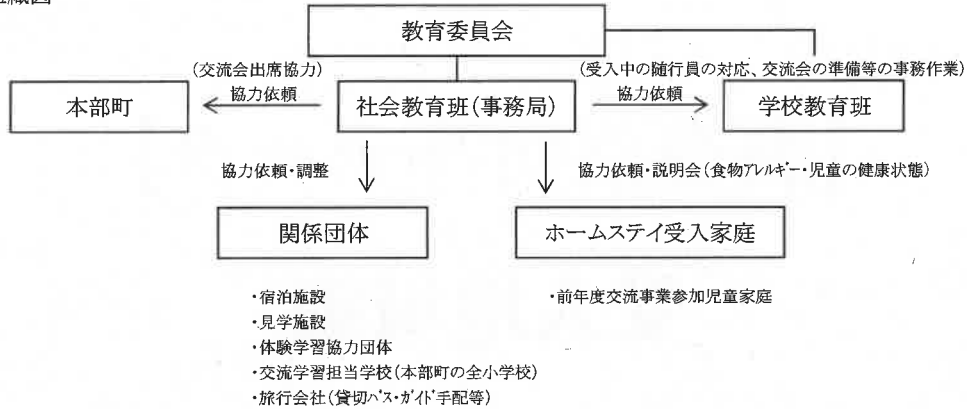
1. 受入組織概要

受入組織名	モトブチョウ キョウイダインカイ 本部町教育委員会	
連絡先	住所	沖縄県国頭郡本部町字大浜874-1
	電話番号	0980-47-5211
	FAX番号	0980-47-3081
	Eメールアドレス	s-miyagi@town.motobu.okinawa.jp
	担当者	宮城 修平

2. 受入体制

- ・本部町教育委員会内で協議を行い、運営マニュアルを作成。
- ・南富良野町教育委員会担当者と日程調整し、安全面(児童の健康状態、体験の安全)等を考慮した計画を作成。
- ・関係機関へ協力依頼、日程等の調整を行う。
- ・委員会内での役割分担を行い、各担当と調整を行う。
- ・ホームステイ家庭を対象に体験学習(ホームステイ等)に関する説明会を開催し安全面等の調整を行う。
- ・受入当日は本町職員を3人以上随行員として同行し、受入体制を整える。

組織図



3. 受入学校名

北海道南富良野町立幾寅小学校

4. 当該小学校の受け入れの経過

(1) 小学校との最初の接点

・昭和62年に開催された海邦国体のカヌー競技において南富良野町が本町に滞在したのをきっかけに本部町と南富良野町との交流事業を展開した。
児童に異なる文化に接する機会を設け、成長を促すことを目的に、平成3年度から幾寅小学校との交流事業を開始した。

(2) その後の小学校への対応

- ・受入児童(随行員)に対し、受入中に撮影した動画をDVDへ編集して送付している。同様に必要な限り写真も送付している。
- ・受入中に生徒が疑問に思った事等の質問があれば早急に対応できるよう配慮している。
- ・充実した交流が出来るよう、反省点があれば改善し今後の交流事業につなげられるよう取り組んでいる。これまでの反省点としては雨天時の対応の遅れが生じ、その後のスケジュールに影響が出たことがあった。

(3) 小学校が当地を選定した理由

- ・昭和62年の海邦国体をきっかけに双方の親睦を深めるため、南富良野町として選定した。

5. 受入地域への効果

- ・町内小学生と交流を持つことにより、知らない地域の生活状況等を学習でき、児童の健全育成に効果をあげている。
- ・交流学习を通して児童間の親睦が深められ、成人した現在でも連絡を取り合っている人もいる。
- ・本町の宿泊施設、特産品販売施設等を利用することにより経済効果に影響を与え、地域の活性化にも貢献していると思われる。

6. 受け入れた小学校との関係維持への対応

- ・本町では6月に受入を行い、翌年1月に南富良野町へ児童の派遣を行っている。
- ・お互いの地域の特産品を寄贈し合い、親交を深めている。
(特産品は、本部町からは2月の「アセローラの日」に合わせ、アセローラゼリーを、南富良野町からはジャガイモやメロンを寄贈し合っている。)
(本事業に関わる事業費は教育委員会で予算化し、本町からの児童派遣には保護者に対し半額補助している。)

「子ども農山漁村交流プロジェクト」受け入れに関する調査票

1. 受入組織概要

受入組織名	シンセイ ダイチ オオガタヲダイケンダイシンキョウギカイ 新生の大地大潟村体験推進協議会	
連絡先	住所	秋田県南秋田郡大潟村字中央1-1
	電話番号	0185-45-3653
	FAX番号	0185-45-2162
	Eメールアドレス	g-turuyo@ogata.or.jp
	担当者	佐々木 鶴代

2. 受入体制

(1) 構成メンバー

大潟村農業協同組合、大潟村教育委員会、大潟村商工振興会、(サポート団体)、大潟村グリーン・ツーリズム連絡協議会(宿泊)※、秋田県立大学(アドバイザー・体験スタッフ) 耕心会(体験) 大潟村カントリーエレベーター公社(体験) 大潟村あきたこまち生産者協会、同友会、農友会、(体験・PR) 大潟村木炭水質浄化研究会、大潟村の自然を愛する会、生活学校、大潟村百姓おどりの会、インターネット学校菜園(体験)※、サンルール大潟、秋田県農業研修センター(宿泊)

※大潟村グリーン・ツーリズム連絡協議会(宿泊)：児童の宿泊受け入れ担当

※インターネット学校菜園(体験)：県内の学校を対象に植付、収穫等の体験ができる。中間管理等は学園が行っており、農産物の成長等は備え付けのライブカメラで撮影され、学校にいたままインターネットで確認することが可能。県内8校が利用中。

(2) 地域内の各機関との連携

事務局が相談窓口として、民泊の手配、体験活動、学校との連携などを行っている。

(3) 小学校、両校会社等との対応

学校が行う現地見学の実施について協力をし、学校の要望に基づき提供出来るプランを提案する。

また、受け入れに基づき、受け入れ関係者との連絡調整を図る。

体験・宿泊・地域内交通等に関する手配等を行う。事前に受け入れの関係者に対する安全、衛生等に関する説明会を開催する。

3. 受け入れ学校名

秋田県横手市立栄小学校

4. 当該小学校の受け入れの経過

(1) 小学校との最初の接点(きっかけ)

前年度、国の受入地域の採択になったので、協議会の紹介で大潟村の体験メニューを全県の小学校に送付する。

その結果、当協議会に電話を受けたことが最初である。横手市栄小学校の校長先生は、会議等で一緒になることが多く、面識があった。

(2) その後の小学校への対応

当協議会に連絡を受け、小学校と体験メニュー等の打ち合わせを行った。

(3) 小学校が当地を選定した理由

- ①事前体験場所（あきた白神体験センター：海と山の体験活動）より、1時間ほどという移動距離が適切であった為。
- ②当協議会の内容を事前に校長が把握しており、地域環境が住んでいる地域と違い農村だという事が選定した理由の一つである。

5. 受入地域への効果

- (1) 受入農家の家族構成が二人家族である農家も多く、子どもを受け入れる事で子ども達から元気をもらう事ができた。子どもたちを通じて、その家族と共に再度来村してくれるケースがある。
- (2) 普段みている風景や田んぼの大きさなどに感動する子どもが多く、地域の良さを再確認する事ができた。

6. 受け入れた小学校との関係維持への対応

小学校の希望を聞きながらも、大潟村の季節のあった体験を提案している。
”体験”は、あるものをそのまま体験をしてもらいたい。

1. 受入組織概要		
受入組織名	うおぬま体験交流推進協議会 タイケンホウリョウシンキョウギカイ	
連絡先	住所	新潟県魚沼市穴沢215-1
	電話番号	025-798-4566
	FAX番号	025-796-2775
	Eメールアドレス	
	担当者	

2. 受入体制
(1) 協議会構成員 ①魚沼市関連 産業課（観光振興室、農政室、地域振興室）、教育委員会生涯学習室 ②公社・組合等 魚沼市観光協会、（財）魚沼市地域づくり振興公社、（財）魚沼市農業公社、各地域の森林組合、魚沼漁業協同組合、入広瀬山菜組合、JA北魚沼、中越森林管理署 他 ③宿泊関連（民間） 守門地区団体受入組合、入広瀬民宿旅館組合（プラス農家民宿）、小出旅館組合、広神地区旅館民宿、奥只見旅館飲食店組合、大湯栴尾又温泉旅館組合、折立地区温泉組合 他 ④体験受入関連 奥只見郷ネイチャーガイド、高野養魚場、大白川木工センター、奥只見観光（株）、広神やな、入広瀬そば打ち組合、広神そば打ち愛好会、入広瀬わら細工組合、食文化フォーラム実行委員会、曹洞宗青年会、むつみグループ、ものずき村、（株）入広瀬、いきいきあちゃんの会、玉川酒造（株）、サンライズ魚沼、魚沼自然大学、なりわいの匠、おりたて振興組合 他 ⑤交通機関 山峡交通株式会社、南越後観光バス株式会社、ひかり交通株式会社、魚沼市タクシー協会 他 ⑥その他 尾瀬ルート活性化委員会、NPO魚沼交流ネットワーク、NPO法人魚沼伝習館、（株）深雪の里、にいがた魚沼特産振興企業組合（かたつくり） 他 (2) 役割 ①協議会は、主に魚沼市に訪れる学校団体等との連絡調整（問合せ、企画相談、手配依頼、請求・支払）を行い、体験交流事業のコーディネートを行う。 ②協議会は当面は（財）魚沼市地域づくり振興公社入広瀬事務所に事務局を置き、当振興公社職員が事務を支援する。 ③協議会は、協議会会員による誘客宣伝業務等の活動支援を行うほか、各種の誘客イベント等に参加する。

3. 受け入れ学校名
東京都武蔵野市立第一小学校

4. 当該小学校の受け入れの経過
(1) 小学校との最初の接点（きっかけ） 平成19年、魚沼市役所（当時 地域振興課）より「子ども農山漁村交流プロジェクト」の受け入れ可能かどうかの依頼があった。新潟県内（魚沼市、長岡市、塩沢町、上越市）の中から魚沼市（守門地域）の受け入れが決定した。

(2) その後の小学校への対応

- ①その当時は、守門地区団体受入組合（民宿小西屋、港屋旅館）を中心に受け入れの対応をした。（平成21年度からは財団法人魚沼市地域づくり振興公社で対応）
- ②受け入れ1週間前に学校を訪問し、保護者説明会と受け入れの最終確認を行った。

(3) 小学校が当地を選定した理由

- ①小学校側が魚沼から行く尾瀬を行程に入れたい希望があった。
- ②平成2年度より学校団体の自然体験教室の受け入れ実績があったため。

5. 受入地域への効果

- ①受け入れ地域内の歴史、郷土料理等の再発見ができた。
- ②インストラクターや宿舎は貴重な体験ができた。

6. 受け入れた小学校との関係維持への対応

- ①小学校の要望にできるだけ答えるようにしている。
- ②学校訪問をし、交流を継続している。

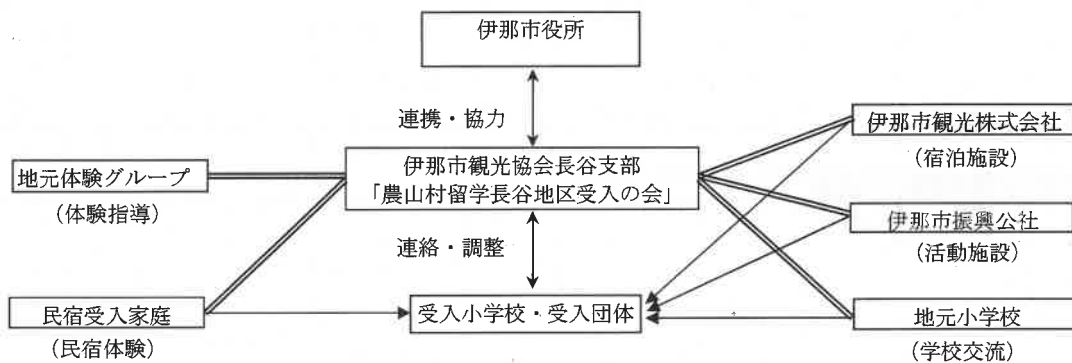
「子ども農山漁村交流プロジェクト」受け入れに関する調査票

1. 受入組織概要

受入組織名	イナシ カンコウヨウカセ シブ ノウサンソジュウガク テク ウケイレ カイ 伊那市観光協会長谷支部「農山村留学長谷地区受入の会」	
連絡先	住所	長野県伊那市長谷溝口1394番地
	電話番号	0265-98-3130
	FAX番号	0265-98-2029
	Eメールアドレス	h-san@inacity.jp
	担当者	有賀 俊康

2. 受入体制

組織構成：千葉市農山村留学推進協議会、千葉市農山村留学長谷地区受け入れの会
伊那市、伊那市振興公社（活動施設）、伊那市観光株式会社（宿泊施設）、上伊那森林組合（体験指導）



3. 受け入れ学校名

千葉県千葉市立生浜西小学校

4. 当該小学校の受け入れの経過

(1) 小学校との最初の接点（きっかけ）

千葉市は平成13年度に「農山村留学推進モデル校」として市内の小学校7校を指定し、6年生全児童139名が教育課程の中で（モデル事業を実施）、長谷村（現伊那市）を訪問して長谷小学校の児童との交流や現地でのホームステイなどの生活体験、化石発掘等の自然体験など、多彩な活動を6泊7日で実施。⇒ 年々拡大。
平成17年に千葉市自然の家の開設に伴い、県内での農村留学と併せて全6年生での実施が実現。

(2) その後の小学校への対応

平成13年にモデル事業を実施してから平成23年度まで11年間実施されている。

(3) 小学校が当地を選定した理由

- ①留学先で多くの人々とめぐり合い、人間関係を広げる中、他人を思いやる心、社会性を育成する。
- ②さまざまな体験学習を通して自主性・創造性を伸ばす。
- ③ゆったりした時間の流れ、異なる学校の友達との生活を通して個性の伸長を図る。

以上の目的を達成することの出来る環境条件地区を模索したところ、歴史と山岳・高原・湖・山間農地に人情をかみあわせ持った長谷村を平成13年度の農山村留学事業のモデル地区に千葉市が指定し実施してきた。

5. 受入地域への効果

「千葉市農山村留学」で長谷住民にとっても千葉市子ども達を通して受け入れ地域が改めて自分達の郷土を見直すことにより、そこに培ってきた風土や文化に良いものがあるとの自信を持つことができ、都市と農山村交流事業の持つ意義を再認識することになった。経済的効果よりも精神的効果が高いといえる。

6. 受け入れた小学校との関係維持への対応

極力学校側の希望に近づけるようにしている。

1. 受入組織概要

受入組織名	アカクサク カッセイカイインカイ 赤倉地区活性化委員会	
連絡先	住所	新潟県十日町市戊41番地（十日町市赤倉）
	電話番号	025-752-6065
	FAX番号	
	Eメールアドレス	
	担当者	庭野 信一

2. 受入体制

民宿15軒。1軒 5～10名受入が可能。
調理師がいる。
村民全員が作業の指導が可能な体制をとっている。

3. 受け入れ学校名

新潟県胎内市立中条小学校

4. 当該小学校の受け入れの経過

(1) 小学校との最初の接点（きっかけ）

赤倉小学校との交流がきっかけとなった。

(2) その後の小学校への対応

春は5年生がキャンプファイヤー、田植え、サツマイモ植付等を行い、秋は6年生が稲刈り、サツマイモ収穫、餅つき等を体験。

(3) 小学校が当地を選定した理由

経費が安い。

5. 受入地域への効果

村中が活性化し、元気で賑やかになっている。

6. 受け入れた小学校との関係維持への対応

本音で話し合い、付き合う姿勢を保っている。

1. 受入組織概要

受入組織名	オクアイジ ヤマザイケンイシキョウギカイ 奥会津山里体験推進協議会	
連絡先	住所	福島県大沼郡昭和村大字下中津川字中島 6 5 2
	電話番号	0 2 4 1 - 5 7 - 2 2 4 0
	FAX番号	0 2 4 1 - 5 7 - 2 2 4 0
	Eメールアドレス	cavok@khaki.plala.or.jp
	担当者	事務局 櫻田 修一

2. 受入体制

(1) 組織構成

①受入町村

金山町、昭和村

②事務局

特定非営利活動法人芋麻倶楽部

③構成団体

金山町商工会、金山町商工会青年部、金山町商工会女性部、金山町旅館組合、金山町民宿組合、横田地区を考える会、特定非営利活動法人あそびの会、昭和村商工会、昭和村商工会青年部、昭和村商工会女性部、昭和村観光協会、奥会津昭和村振興公社、昭和村旅館民宿業組合、企業組合夢空間昭和村、金子観光

(2) 窓口組織の手配業務の概要

①学校からの連絡・相談窓口としての役割を行う。

②学校が行う現地下見の実施について協力する。

③学校の要望に基づき、提供できる受入プランを提案する。

④受入プランに基づき、受入関係者との調整を図る。

⑤体験・宿泊・地域内交通等に関する手配を行う。

⑥事前に受入関係者に対する安全・衛生等に関する説明会を開催する。

⑦受入直前には、関係者と協力して現地の下見・確認をする。

⑧受入関係者の損害賠償責任保険の加入を確認しておく。

⑨受入時は、スケジュール管理や緊急時の連絡本部としての役割を果たす。

⑩学校は地域内での活動に係る精算を一手に引き受ける。

3. 受け入れ学校名

埼玉県草加市立高砂小学校

4. 当該小学校の受け入れの経過

(1) 小学校との最初の接点（きっかけ）

以前より友好都市であった埼玉県草加市（現在は姉妹都市）とは、民間団体も交えながら議員団や行政同士の相互交流が行われていたが、平成21年1月に受け入れ窓口の地域推進協議会が発足したことを受けて草加市教育委員会に対して営業活動を開始したところ、早速に当時草加市立小学校の中で最多児童数の高砂小学校が候補地として当地を検討することとなった。

(2) その後の小学校への対応

候補地となったことを受けて、早速に学校を訪問し、地域の概要ならびに受け入れ窓口団体の位置づけ等の説明を実施した。
5月に草加市教育委員会と高砂小学校長の下見を行い、7月に同校長と教頭、教務主任の詳細下見の後に宿泊先、体験メニュー等の提案を行った。
その後、学校側において内容の検討を実施し、8月には校長、教頭他、担任教諭全員の詳細な下見の実施と体験メニュー等の打合せを行った。

(3) 小学校が当地を選定した理由

以前から草加市との友好都市関係により交流があったことに加え、校長が学生の頃からスキー合宿などで会津をたびたび訪れていたことと、自然はもとより、今なお日本の原風景が残る当地域の住居や生活様式が大きな理由となっている。

5. 受入地域への効果

高齢過疎化の進む当地域においては、200名を超える来訪者による経済効果は勿論だが、何よりも体験メニュー実施において地域の多くの住民が児童との交流によって意識の活性化が図られており、体験学習に関わるのが大きな喜びとなっている。

6. 受け入れた小学校との関係維持への対応

実施後に小学校を訪問し、双方の改善箇所の洗い出しを行って、次年度への継続準備を実施している。

1. 受入組織概要

受入組織名	タイナイガ タイナイガ スイシンキョウガイ スイシンキョウガイ ニシカイ ニシカイ 胎内型ツーリズム推進協議会301人会
住所	新潟県胎内市夏井1191-1
電話番号	0254-48-3321
FAX番号	0254-48-3323
Eメールアドレス	koryu@city.tainai.lg.jp
担当者	近 雅幸

2. 受入体制の概要

※組織の概要資料、組織図、体制図がありましたら、合わせてその資料を添付してください。

別添資料のとおり

- (1) 構成メンバー（事務局、構成員（団体・個人）等）
- (2) 受入体制概略図
- (3) 緊急連絡体制の概略図

3. 受け入れ学校名

新潟県胎内市立中条小学校

4. 当該小学校の受け入れの経過**(1) 小学校との最初の接点（きっかけ）**

平成17年9月に胎内市が誕生し、平成20年6月にグリーン・ツーリズムを推進する本協議会が設立され、地域づくりの手法として本格的にグリーン・ツーリズムに取り組むことになった。

中でも「ふるさと体験学習」は、市内の豊富な教育資源を地元の子どもたちに活かせることから、協議会の主要事業に位置付け、学校と地域と緊密に連携するなかで進められている。また、ふるさと教育として、“ふるさとに学び、ふるさとを学び、ふるさとに子どもたちを活かし、子どもたちの中にふるさとを残す”ことを心がけながら、現在は3つの“きょういく”「教育・共育・郷育」をキーワードに推進している。

中条小学校は市内の一番大きい小学校である。

(2) その後の小学校への対応

ふるさと体験として、平成20年度からスタートしているため、平成21年度は2年目の取り組みとなる。

平成21年度実施日については、平成20年12月に日程の仮決定を行い、平成21年4月に市内小学校を対象とした説明を行い、本決定となる。説明会では、当地域を十分に知ってもらうことはもちろんのこと、学校としてのねらいや考え方を整理していただくことが必要となっている。

体験プランの仮決定は、実施2ヶ月前までとし、体験学習のねらいやその狙い達成にふさわしい体験メニューを選択し、時系列に整理します。下見は、実施1ヶ月前までに確実に実行することとしている。

実施後はアンケート調査を行い、10月には反省会を行っている。

(3) 小学校が当地を選定した理由

ふるさと体験学習として実施しているため、他地域への選択肢はなかった。

5. 受入地域への効果

地域資源を活用→地域を経営→地域の持続性UPにつなげたいと考えている。

社会的効果)

- ① 昔は当たり前だった大人の役割を全うできる喜び
- ② 子どもたちのモチベーションを内発的に醸成されるお手伝いができる喜び
- ③ 家庭内、集落内、地域内、学校など様々な結びつきにより前向きに変容
- ④ 自分の代で終わりという農家のモチベーション維持

(経済的効果)

- ① バブル崩壊後、利用減となっている市営施設の活用
- ② 素晴らしいがどうPRしたらいいかわからない自然の活用
- ③ 多様な学べる施設や歴史文化の活用
- ④ 子どもたちが出て行った後の大きな家の活用
- ⑤ 交流ビジネスの起業

6. 受け入れた小学校との関係維持への対応

- (1) 人とのふれあいが何よりの学びであることを伝える。
- (2) 学校の「思い」や「願い」をカタチにした体験プランを作成する。
- (3) 安心できる受入体制づくりとフィードバック。
- (4) 地域を知り、地域を経営する感覚を持ち合わせる。
- (5) 「初心を忘れない」気持ちを大切にしている。

「子ども農山漁村交流プロジェクト」受け入れに関する調査票

1. 受入組織概要

受入組織名	ミョウコ 妙高市グリーン・ツーリズム推進協議会	
連絡先	住所	新潟県妙高市大字関山6186-1 妙高山麓都市農村交流施設
	電話番号	0255-82-3935
	FAX番号	0255-82-3936
	Eメールアドレス	info@myoko-gt.com (代表)
	担当者	事務局長 舘野 智光

2. 受入体制

※別紙の通り

3. 受け入れ学校名

新潟県南魚沼市立五十沢小学校

4. 当該小学校の受け入れの経過

(1) 小学校との最初の接点 (きっかけ)

国立妙高青少年自然の家の利用

(2) その後の小学校への対応

- ・受入農家（民宿）下見の対応
- ・農家民宿と自然の家でのプログラムも含めて、全体のプログラム作りへ助言及び相談に対応
- ・学校での保護者説明会に、自然の家の職員、農林課職員、協議会職員で出席

(3) 小学校が当地を選定した理由

国立妙高青少年自然の家が地域内にあり、自然の家のプログラム（妙高アドベンチャー等）と、農家民宿の両方のメリットを生かすことができ、教育効果が高く、かつ地域との交流ができるという、奥の深い体験が出来るため。
（農家民宿の前後に自然の家プログラムを取り入れるサンドイッチ型の体験）

5. 受入地域への効果

*受入先である妙高市杉野沢地区（スキー民宿）限定の効果

- ・時期が9月下旬～10月の受入のため、閑散期の集客
- ・杉野沢の郷土芸能（春駒）グループとの交流によって、宿の人以外の地域住民とも交流があった。
- ・スキー客の受入がメインのため、長年流れ作業のような受入ばかりだったのが、宿を始めたきっかけや、初心に帰り地域の魅力を伝えたり、自分の得意分野を活かせたりする事で、自分たちの仕事の楽しさを思い出させてくれるきっかけとなった。
- ・受入後も、手紙や写真が送られてきたり、家族で泊まりに来たりと、家族ぐるみの付き合いが始まった。

6. 受け入れた小学校との関係維持への対応

年1回程度、受入農家の方々と学校訪問し、子どもたちとの交流や先生方との意見交換会を実施している。

「子ども農山漁村交流プロジェクト」受け入れに関する調査票

1. 受入組織概要

受入組織名	ナナオシ ヲ ノウサンギョウソウリユウ ケイイキウギカイ 七尾市子ども農山漁村交流プロジェクト受入協議会	
連絡先	住所	石川県七尾市袖ヶ江町イ部25番地
	電話番号	0767-53-8436
	FAX番号	0467-52-2812
	Eメールアドレス	kankou@city.nanao.lg.jp
	担当者	唐木 寿代

2. 受入体制

(1) 1構成メンバー：各地区受入協議会（大吞、西岸、能登島、沢野）（2名）、各観光協会（七尾市、能登島、和倉温泉）、商工会 旅館飲食店組合
(2) 地域内の各機関との連携： 能登島観光対策室（能登島観光協会）/観光施設/宿泊施設/地域活性化グループ/観光・農林漁業
(3) 小学校、旅行会社等との対応 連絡：馬場小学校校長と連絡・調整

3. 受け入れ学校名

石川県金沢市立馬場小学校

4. 当該小学校の受け入れの経過

(1) 小学校との最初の接点（きっかけ） 平成21年5月、石川県観光推進課からの紹介

(2) その後の小学校への対応

紹介を受けて、早急に学校を訪問し、当協議会の概要等説明を行った。

ほか内容は以下のとおり。

①受入地域の説明 ②学校側の要望等確認 体験活動の内容（体験メニュー、プログラム）や、宿泊施設等の提案から確認。③事務局からのプログラムの提案から要望の確認 ④学校からの要望に対応可能な体制を心がけた。（スケジュール等に関する確認）

(3) 小学校が当地を選定した理由

①校長が能登出身であることから、能登地域を限定。

②海や山のある地域を選定考慮

③地域環境がマッチング（アイランドが魅力）

※アイランドは自然に関わる体験活動を通して、自然を大切にすることを育むことができる。

④要望対応に適切に応じた。

5. 受入地域への効果

(1) 宿泊施設への経済効果となった。

(2) 閑散時季の大きな主要な収入効果となった。

(3) 我流人がインストラクターとして支援することから地域づくりのきっかけにも繋がった。

(4) 受入が体制づくりのための課題解決、整備に繋がった。

※依頼されたから受け入れをする意識から、前向きに受け入れる意識に変化してきた。

(5) 再度、訪れる家族もみられたことから、交流のためのしかけづくりとなった。

6. 受け入れた小学校との関係維持への対応

(1) 当協議会主催の自然体験活動のPR等営業活動を行っている。

(2) 当協議会の活動現況や活動の方向性等を提言し、体験活動実施の報告を行っている。

「子ども農山漁村交流プロジェクト」受け入れに関する調査票

1. 受入組織概要

受入組織名	ノハラギョウソノリョウカシヤウカイ まいづる野原漁村交流推進協議会	
連絡先	住所	京都府舞鶴市宇野原57番地の6
	電話番号	0773-67-0706
	FAX番号	0773-67-0500
	Eメールアドレス	
	担当者	武田 康司

2. 受入体制

◆構成メンバー

- (1) 事務局（漁協）：連絡、問い合わせ、企画、回答、手配
 (2) 野原観光協会（民宿組合）：連絡、手配
 (3) 構成員（民宿を営む組合員 30戸余り）：受入れ

3. 受け入れ学校名

京都府大山崎町立大山崎小学校

4. 当該小学校の受け入れの経過

(1) 小学校との最初の接点（きっかけ）

京都府教育委員会主催の小学校長会の席で、舞鶴出身の校長先生が舞鶴野原の漁村に行ってみたらの声がけにより、大山崎小学校の校長先生から漁協に電話をいただいたのがきっかけとなった。

(2) その後の小学校への対応

3月に大山崎小学校校長から下見の連絡があり、5月に受入れの下見と体験内容等について打合せを行った。

当日のメンバーは

- ①大山崎小学校（校長他2名）
- ②漁協（事務局1名）
- ③野原観光協会会長
- ④野原観光協会 代表者2名

電話やファックスでの確認ややり取りを適切に行い、極力早い回答を心がけた。

(3) 小学校が当地を選定した理由

漁業体験が可能で、野原の豊かな自然とすばらしい海の環境があり、受入れの態勢が整っていたことで判断された結果、選定されたと聞いている。

5. 受入地域への効果

民宿営業者（漁協組合員）に体験の受入れのノウハウが勉強できた。

つまり、30年来臨海学校の受け入れの経験があるが、学校の先生が主導で実施しているが、漁業体験など様々な体験を目的にした学校を受入れたのは初めてであったためである。

さらに、子ども達は遊びに来るのではなく学校行事として来るので、交流の大切さについて地域にも理解が深まった。

6. 受け入れた小学校との関係維持への対応

大山崎小学校には、2年間当地野原に来てもらったので、また次の機会に来てもらえるよう学校に情報を流す努力をする。

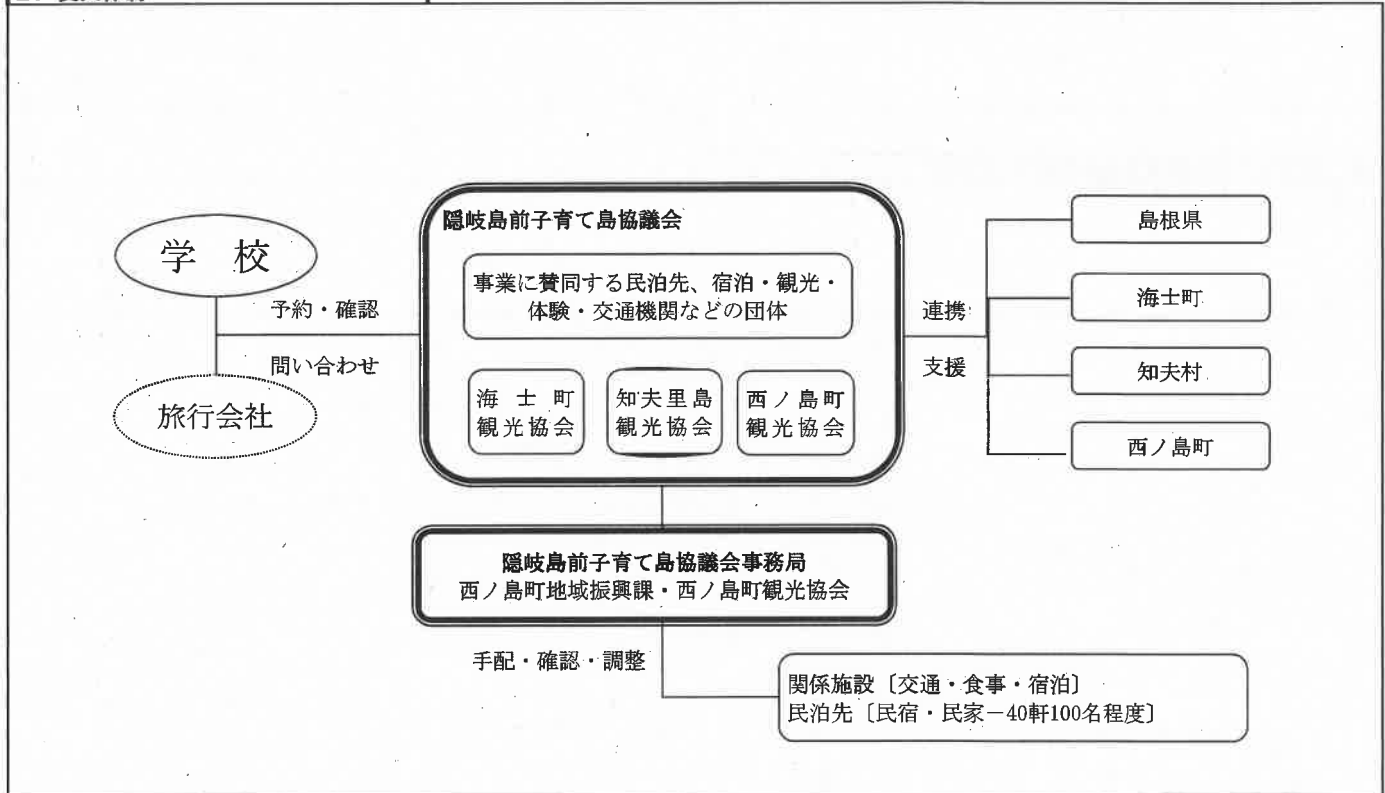
新たな情報があれば本校に情報提供する考えである。

「子ども農山漁村交流プロジェクト」受け入れに関する調査票

1. 受入組織概要

受入組織名	オキ・ドウゼンソダ シマキョウギカイ 隠岐島前子育て島協議会	
連絡先	住所	島根県隠岐郡西ノ島町大字美田4386-3
	電話番号	08514-7-8888
	FAX番号	08514-7-8890
	Eメールアドレス	
	担当者	中山佳昭

2. 受入体制



3. 受け入れ学校名

島根県津和野町立木部小学校

4. 当該小学校の受け入れの経過

(1) 小学校との最初の接点(きっかけ)

平成20年5月に島根県教育庁益田教育事務所よりメールにて連絡をいただいた事が最初であった。行程表(案)も添付されており各島の担当者和その後協議に入った。

(2) その後の小学校への対応

学校（校長）とは連絡を取りながら各島との調整を行った。 行程・宿泊施設・体験メニューなどできる限り要望に沿った内容で検討し対

(3) 小学校が当地を選定した理由

島根県教育庁から当地の受け入れ地域情報を提供された木部小学校は、当地が全く違った自然環境、文化があることで選択可能な多くの活動を準備していた点と、受け入れ体制が整備されていた点。

5. 受入地域への効果

・今回この事業をとおして新たな体験メニューの取り組みとして、これまで受け入れしている修学旅行では実施していなかった郷土料理作りや貝細工作りなどの新たなメニューができた。

6. 受け入れた小学校との関係維持への対応

・観光カレンダーを送付している。

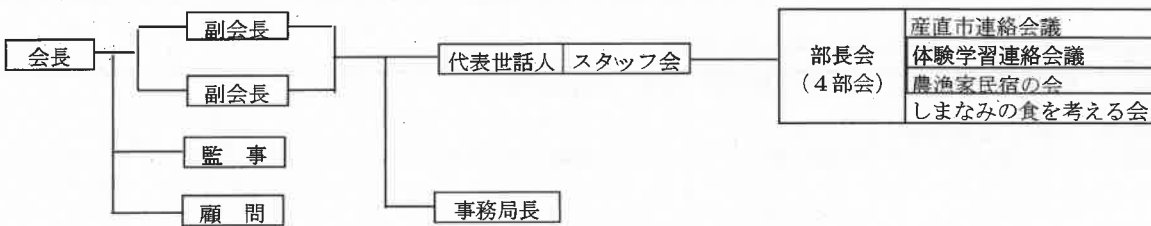
「子ども農山漁村交流プロジェクト」受け入れに関する調査票

1. 受入組織概要

受入組織名	しまなみグリーン・ツーリズム推進協議会 スィシキョウギカイ	
連絡先	住所	愛媛県今治市伯方町木浦甲4637-3
	電話番号	0897-72-3343
	FAX番号	0897-72-3343
	Eメールアドレス	shimanamigt@earth.ocn.ne.jp
	担当者	重松 康之

2. 受入体制

- (1) 構成メンバー（事務局4名、役員5名、構成員58（団体・個人））
 (2) 地域内の病院、消防との連携（緊急第一連絡先として、島ごとに病院確保が必要）
 (3) 事務局が小学校との対応（連絡、問い合わせ、企画、回答、手配等）
 (4) 会員に対し安全講習会等、事前打合せの開催（5月：総会時に、消防署の協力で救急救命講習の実施）



3. 受け入れ学校名

愛媛県西予市立中筋小学校

4. 当該小学校の受け入れの経過

(1) 小学校との最初の接点（きっかけ）

平成20年度末に、中筋小学校から直接、当協議会に電話を受けたことが最初であった。中筋小学校は、インターネットで県内の受入地域を見たものと思われる。

(2) その後の小学校への対応

県主催の平成21年度子ども農山漁村交流プロジェクト連絡会において、学校との顔合わせを行った。

目的は以下のとおり。

- (1) 当地域を十分に知ってもらう。
- (2) 小学校側の考え方を知る。
- (3) 小学校側の求める体験活動や宿泊施設についての要望を確認する。
- (4) 今後のスケジュールに関する確認
- (5) 子どもプロジェクト事業の内容を学校に知ってもらう。

基本は、小学校からの質問やリクエスト等があった場合は、できる限り早く回答することを心がけて対応した。

(3) 小学校が当地を選定した理由

中筋小学校が山の中の小学校ということで海の体験ができる場所を希望したため。

愛媛県教育委員会からの受入地域情報として、中筋小学校に対し紹介した地域から、上記の条件とともに受入先の規模がマッチしたこと
から、当地域を選定した。

5. 受入地域への効果

- (1) 受入地域全体では、受入農家（民宿）及び体験受入農漁家・団体への経済効果があつた。
- (2) 農漁家民宿が増えた。
- (3) 子供達の発表を聞いて地元で自信を持つようになった。
- (4) 盆踊りなど地域イベントに受け入れた子ども達を連れていくことで、地域の人たちにグリーン・ツーリズムをアピールできている。

6. 受け入れた小学校との関係維持への対応

受入れた翌年度に宿泊した民宿が提供しているいちご狩り体験に中筋小学校が遠足に訪れた。
他の学校では卒業式や運動会の案内が届いた。

1. 受入組織概要

受入組織名	イキ ケンガカンコウケイショウカイ 志岐体験型観光受入協議会	
連絡先	住所	長崎県志岐市郷ノ浦町郷ノ浦281-6 郷ノ浦港旅客ターミナルビル内
	電話番号	0920-47-5355
	FAX番号	0920-47-5356
	Eメールアドレス	ikiukeire@gmail.com
	担当者	下条 正文

2. 受入体制

- (1) 緊急連絡体制について・・・資料「緊急連絡体制」
 (2) 協議会の体制について・・・資料「組織図」

3. 受け入れ学校名

春日市立白水小学校

4. 当該小学校の受け入れの経過

- (1) 小学校との最初の接点（きっかけ）

(株)農協観光九州グリーンツーリズム支店よりご紹介いただいた。

(2) その後の小学校への対応

- ①白水小学校様へ伺い、事業内容と受け入れに関する説明及び学校側の目的や希望などヒアリングを行う。
- ②老岐への下見・視察を実施し、現場レベルでの課題や問題について関係者で検討を行う。
- ③①②から得た情報を考慮、反映したモデルコースの提案を行いながらブラッシュアップをかける。
- ④受け入れの実施へ。

(3) 小学校が当地を選定した理由

白水小学校様が求める体験や環境などが老岐にあった。

5. 受入地域への効果

- ・体験事業主に収入が入ることで、本人たちの意識向上につながった。
- ・総合的なソフト面の整備と小学生受け入れに対する体制が整った。
- ・整備した受け入れ態勢をもとにして、中学生・高校生向けの整備の足がかりとなった。

6. 受け入れた小学校との関係維持への対応

- ・白水小学校内にて「舩いフォーラム（老岐物産展・学校訪問・交流会）を実施する。
- ・教頭先生による講演会の開催（プロジェクト後の子ども達の成長や変化について）

平成24年3月

編 集 子ども農山漁村交流プロジェクト研究会

〒101-0021 東京都千代田区外神田1-16-8 Nツアービル4階

TEL 03-5297-0323

FAX 03-5297-0260

URL <http://www.znk.or.jp/kodomo>

発 行 社団法人 全国農協観光協会

〒101-0021 東京都千代田区外神田1-16-8 Nツアービル4階

TEL 03-5297-0323

FAX 03-5297-0260

URL <http://www.znk.or.jp>

※無断転用を禁じます。

この冊子は、
農林水産省『平成23年度 食と地域の交流促進対策交付金』により制作いたしました。

ふると子ども夢学校